

コミュニティと中大連携を活かした主体的・対話的で深い学びの実践に向けて

那珂川市立那珂川北中学校

校長 山田 晋平 (Shimpei Yamada)



1 はじめに

那珂川北中学校は、那珂川市の北に位置する中学校です。豊かな自然に恵まれているとともに利便性に富み、学校から車で 5 分走れば福岡市南区に到達し、市内東部の博多南駅から乗車すればわずか 10 分で博多駅に到着するなど、福岡市に通勤する方々にも人気があるエリアです。加えて、博多南駅から乗車する車両は清潔で快適な新幹線で、低料金で通勤通学ができ、多くの方々から喜ばれています。

本校は、今から 15 年前の平成 16 年に開校した福岡県で最も新しい学校のひとつです。「学力体力の向上」を重点目標とする中、目覚ましい活躍を続けております部活動生や生徒会執行部に牽引され、生徒達の多くが向上心を持って学校生活を送っています。



2 福岡女学院大学と那珂川北中学校の連携の実例

① 「コミュニティ・スクール」充実への支援

本校は平成 23 年度から、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、協働しながら子どもたちの成長を支えるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を推進しています。平成 27 年度からは、福岡女学院大学副学長の伊藤文一教授に学識経験者として委員に加わっていただき、那珂川北中学校ならではの個性あふれるコミュニティ・スクールの在り方についてご指導をいただいております。おかげさまで、コミュニティ IT 推進委員会に管理運営いただいている本校ホームページの閲覧者数はたいへん多く、リアルタイムでアップされる学校行事の紹介など、他に見られないバラエティに富んだ内容となっています。穏やかな雰囲気の中での確かな理論と、豊かな実践にもとづいた伊藤教授からのご助言は保護者や地域代表の方々に大好評です。



② 「主体的・対話的で深い学び」への支援

那珂川市は、文部科学省の「ICT を活用した教育推進自治体応援事業」協力自治体に指定され、本校がその拠点的な役割を果たしています。伊藤文一教授には、那珂川

市 ICT 活用推進委員会委員にも就任いただき、本校をはじめ那珂川市三中学校の実践の方向性をご指導いただきました。英語科のほか ICT を活用した実践を試行し、年間指導計画のモデルを文部科学省に提案することができました。この取り組みは、文科省のホームページにて紹介されました。また、タブレット (iPad ミニ) 40 台が導入され、一人一台での英語科 ICT 活用授業が可能となりました。現在もアクティブ・ラーニングのより具体的な実践に向けてご示唆をいただいております。



③ 中学教師による授業や実習への協力

これまで、27 年度に大塚淳之元教頭が女学院大学教職課程の伊藤教授のセミナーに参加したのをはじめ、教務主任の小林史宜主幹教諭が 28 年度から学生に道德の示範授業や教師論で出前授業を行なったり、出淵崇主幹教諭が ICT 教育を駆使した英語科授業の実践において学生の参観を受け入れたりしています。教職の最前線で結果を出している教員の熱い思いと緻密な戦略を学生の皆さんに受けとめていただければ幸いです。

3 大学と中学の新たな連携の姿にむけて

教職をめざす福岡女学院大学の学生にむけて、教科による授業実践だけではなく、「生徒指導」「生徒会活動」「部活動」などの分野における実践の紹介や合同演習などに活動を広げているところです。卒業後、過酷と言われる学校現場では生徒指導力やコミュニケーション能力などが必要となります。そこで、生徒指導について中学教師から「生の声」を聞くことのできる講義の開催、大学の講座では行われない生徒会活動の創造についての研修など、現場の教師にしかできない特色ある連携を工夫しているところです。また、中学生の学力向上に向けた夏休みの補充学習教室などで、大学生によるサポートで中学生とコミュニケーションをとりながら協力をいただいています。このような連携が教職を目指す学生の不安を取り除く一つの機会になればと思います。



4 おわりに

現在、福岡女学院大学と那珂川市教育委員会の間では、更に連携を強化する方向で協議が進んでいると伺っています。那珂川市の小中学校の教育活動に、教職を志す学生の皆さんが関わっていただくことは、学校の活性化に大きく寄与すると確信するところです。大学生の皆さんの来校を心からお待ちしております。

ます。